マナビエ
MANABIE

記述の設計図　第3部 組み立てる

U08　字数に合わせる（補う・削る・分けて書く・長い解答の手順）

アドバンス

対象：高校2年・偏差値50

1. 要点（ルール）
2. 例題　評論「顔はだれのものか」
3. 練習1・練習2（解答らんつき）
4. 解答と採点表

要点　字数に合わせるルール

R08-1　骨（必要最低限の解答）を先に

問いへの端的な答えを先に決め、文末に置く。骨の無い答えは、要素をいくら並べても聞かれたことに答えていない。

R08-2　足す順番は 理由→対比→同格

字数に応じて骨の前に足す。原則は ①理由 ②対比 ③同格（言葉をくわしく説明する修飾語句）。ただし傾向であって規則ではない。本文に根拠のない要素・本文と矛盾する要素は足さない。

R08-3　補う（主体・話題・前提）

だれの話か、何についての話か、どんな前提での話かを補う。評論では――線部の主語が省かれていることが多い。

R08-4　削る（名詞化・抽象化）

名詞化＝節を名詞にまとめる（～のかということ→～の理由）。抽象化＝具体例の列挙を上位の語に（友人・場所・道具・制度→支えとなるつながり）。削る順は 同格→対比→理由。骨は削らない。

R08-5　分けて書く

八十字をこえたら二文以上も考える。一文に異なる主語が入るときは特に分ける。答えの中の前の文を指す指示語（その・それは）は使ってよい（本文を指す指示語は U07 のとおり中身を入れる）。

R08-6　字数

8割以上・上限以内。分けたり削ったりしたら数え直す。

R08-7　要約（百五十字前後）の手順

①段落ごとに役割（話題・主張・理由・例・対比・譲歩）を書く ②具体例と、譲歩（たしかに～）の部分を外す ③最後の主張を骨にする ④対比・理由を前に足す ⑤二～三文に分け、字数で足す・削る。筆者の主張に自分の意見を足さない。

ルールの番号（R08-○）は、講座全体の通し番号です。動画・Webページ・このPDFで同じ番号を使っています。

例題　評論「顔はだれのものか」

① 自分の顔ほど、自分のものだと思えるものはない。名前や持ち物は取りかえがきいても、顔だけは、ほかのだれのものでもない、私そのものだ。私たちはふつう、そう考えている。

② ところが、私は自分の顔を、一度もじかに見たことがない。鏡に映る顔は、左右が反対になっている。写真の顔は、ある一瞬を切りとったものにすぎず、しかもそれを見ると、「こんな顔だったろうか」と、どこか落ち着かない気持ちになる。私の顔を、いつもそのままの姿で見ているのは、私ではなく、私と向きあっている他人のほうなのである。

③ しかも、顔はじっとしていない。人と話すとき、顔はたえず動き、相手の言葉に笑い、くもり、おどろく。その表情の変化をいちばんよく受けとめているのも、やはり相手である。私の顔は、私が見るためのものというより、相手に何かを伝えるために、相手に向けて差しだされている。

④ だとすれば、顔は、他人のためにある。私は、自分の顔がどんな顔なのかを、他人のまなざしや、他人の表情の変化を通してしか知ることができない。相手がふっとほほえみ返してくれたとき、私ははじめて、自分がいまやわらかい顔をしていたことに気づく。反対に、相手の顔がこわばったとき、自分の顔がけわしくなっていたことを知らされる。

⑤ 近ごろは、写真を加工して、自分の顔を思いどおりに整えることがたやすくなった。目を大きくし、はだをなめらかにし、気に入った一枚だけを選んで人に見せる。けれども、画面のなかでどれほど整えた顔も、だれかに向けられ、だれかに受けとめられなければ、まだ顔として生きてはいない。

⑥ 顔は、私がひとりで持っているものではない。それは、私と他人とのあいだで、たえずやりとりされながら、そのつど形をとるものなのである。

問　――線部「顔は、他人のためにある」とはどういうことか。百二十字以内で説明せよ。

解き方

1. **手順1　骨（必要最低限の解答）**
   ④⑥段落：顔は、相手に向けて差しだされ、他人のまなざしを通してはじめて意味をもつもの。これを「～ということ。」の形で文末に置く（R08-1）。
2. **手順2　理由を足す**
   ②③段落：人は自分の顔をじかに見られない。顔の姿や表情の変化を受けとめているのは、向きあう他人である。
3. **手順3　対比を足す**
   ①段落：顔はもっとも自分のものだと思われがち。「～と思われがちだが」と前に置く（R08-2）。
4. **手順4　同格を足す**
   ③段落「相手に何かを伝えるために」を、骨の「差しだされ」の前に置いて、くわしくする。

5. 手順5　分けて書く

対比・理由・骨を一文にすると「～が、～ず、～であり、～」と主語がずれる。理由の文と、骨の文の二文に分ける（R08-5）。⑤の写真の加工は具体例・背景なので入れない。最後に数える。

組み立て表（骨と、足す部品・削る部品）

部品	中身	根拠	どうする？
骨	顔は、他人に向けて差しだされ、他人のまなざしを通してはじめて意味をもつもの	④⑥	◎ 文末に置く
理由	人は自分の顔をじかに見られず、姿や表情の変化を受けとめるのは向きあう他人	②③	◎ 前に足す
対比	顔はもっとも自分のものだと思われがち	①	○ 百二十字なら足す
同格	相手に何かを伝えるために（差しだされる）	③	○ 字数があれば
例・背景	鏡・写真／写真の加工	②⑤	× 入れない

模範解答

模範解答（百二十字以内）　119字／120字以内

顔はもっとも自分のものだと思われがちだが、人は自分の顔をじかに見ることができず、その姿や表情の変化を受けとめているのは向きあう他人である。顔は、相手に何かを伝えるために差しだされ、他人のまなざしを通してはじめて意味をもつものだということ。

参考：六十字以内なら　54字／60字以内

人は自分の顔をじかに見られず、顔は他人に向けて差しだされ、他人のまなざしを通して意味をもつものだということ。

採点表

採点表（要素ごとの配点）	点
骨：顔は他人に向けられ、他人のまなざし（受けとめ）を通して意味をもつ	4点
理由：自分ではじかに見られず、受けとめているのは他人	3点
対比：顔はもっとも自分のものだと思われがち	2点
文を分けてねじれがない・文末「～こと。」	1点
合計	**10点**

減点の型（こう書くと）	何点になる？ なぜ？
「鏡の顔は左右が反対で、写真の顔は一瞬を切りとったものにすぎないから。」	例だけで骨が無い。「どういうことか」に答えておらず、文末もずれる。0点。
百二十字を一文で「〜だが、〜できず、〜であり、〜ので、〜ということ。」	主語が途中で入れかわり、ねじれる。内容が合っていても形の1点が入らず、読みとれない部分は点にならない。
「…意味をもつものだということ。写真を加工しても顔は生きない。」	⑤の背景を足して字数をうめた。聞かれていないうえ、文末が「こと。」で終わらない。
百二十一字以上	字数超過。採点対象外になることが多い。

練習1　評論「たよる先をふやす」

① 「自立した人になりなさい」と言われると、多くの人は、だれにもたよらずに、何でも自分ひとりでこなせる人の姿を思いうかべる。人の手を借りるのは、まだ一人前ではないしるしだ、と。そして、だれかに助けを求めたくなっても、迷惑をかけてはいけないと、ひとりでがまんしてしまう。

② しかし、ほんとうにだれにもたよらずに生きている人など、いるだろうか。私たちは毎朝、だれかが育てた米を食べ、だれかが運転する電車に乗り、だれかがつくった電気で明かりをつけている。ただ、たよる先があまりにたくさんあるので、たよっていることに気づかないだけなのだ。

③ 車いすを使う人のことを考えてみよう。駅にエレベーターが一つしかなければ、それが止まった日、その人は駅に入ることさえできない。けれども、エレベーターが二つあり、スロープがあり、声をかければ手を貸してくれる駅員や乗客がいれば、どれか一つが使えなくても、その人は自分の行きたい場所へ行ける。

④ つまり、人が「自分ひとりでできる」と感じられるのは、たよる先がないからではなく、たよれる先がいくつもあって、一つ一つへのたより方が目立たないからである。たよる先が一つしかない人ほど、その一つを失ったときに、何もできなくなってしまう。

⑤ そう考えると、自立とは、たよる先をふやしていくことなのだ。困ったときに相談できる友人、助けを求められる場所、使える道具や制度。そうしたつながりを少しずつ広げていくことが、人を、ほんとうの意味で自由にする。

⑥ だから、だれかに助けを求めることは、はずかしいことではない。それは、自分の足で立つための、たいせつな一歩なのである。たよる先をふやすことは、弱さのしるしではなく、強さをつくるための工夫なのだ。

問　――線部「自立とは、たよる先をふやしていくことなのだ」とはどういうことか。八十字以内で説明せよ。

① 組み立て表を書こう

部品(骨・理由・対比・説明)	中身	根拠の段落

② 答えを書こう

									10										20
									30										40
									50										60
									70										80

80字以内(1マスに1字。句読点も1字)

練習2　評論(要約)「対話とは何か」

① 学級会で、文化祭の出しものを決める話しあいをしたとする。劇がよいという班と、展示がよいという班が、それぞれの理由をならべ、相手の案の弱いところを指摘しあう。最後は多数決で劇に決まり、展示を推した班は、どこか納得できないまま席にもどる。

② こうした話しあいは「討論」である。討論では、自分の考えをはじめから正しいものとして持ちこみ、それを相手に認めさせることがめざされる。考えを変えることは負けを意味するから、人は相手の言葉を、反論の材料をさがすために聞くようになる。

③ これに対して「対話」は、勝ち負けを決めるための話しあいではない。対話では、相手の考えを聞くことで、自分の考えが変わることが、はじめから受けいれられている。いや、むしろ、変わることこそが対話の目的だと言ってよい。

④ なぜなら、人は自分の考えの前提に、ひとりでは気づけないからである。たとえば、「劇のほうが盛りあがる」と言う人は、盛りあがることが文化祭のいちばんの目的だと、知らず知らずのうちに決めている。その前提は、「展示なら、来た人と一人ずつ話せる」という別の考えにふれたときに、はじめて見えてくる。

⑤ たしかに、対話には時間がかかる。結論が出ないまま終わることもあるし、すぐに何かを決めなければならない場面では、討論や多数決のほうが役に立つこともあるだろう。

⑥ しかし、対話の値打ちは、結論が出るかどうかにあるのではない。たがいの前提のちがいを確かめあい、自分ひとりでは見えなかったものの見方に出会うことにある。わかりあえないところがはっきりすることも、対話の大切な成果なのである。

⑦ 意見のちがう相手は、言い負かすべき敵ではない。自分の考えの外がわを見せてくれる、かけがえのない相手なのだ。

問　本文の要旨を、百五十字以内でまとめよ。

① 組み立て表を書こう

部品(骨・理由・対比・説明)	中身	根拠の段落

② 答えを書こう

									10										20
									30										40
									50										60
									70										80
									90										100
									110										120
									130										140
									150										

150字以内(1マスに1字。句読点も1字)

解答と採点表

練習1　評論「たよる先をふやす」

解き方

1. **手順1　骨**
   たよれる先が多いほど、一つを失っても自分の力でやっていける、ということ。――線部をくり返さず、なぜ「ふやす」と自立になるのかを骨にする。

2. **手順2　対比と理由**
   対比＝①段落「だれにもたよらないこと」ではない。理由＝④段落「たよる先が一つしかないと、失ったときに何もできない」。

3. **手順3　あふれる所を削る**
   本文の言葉をそのまま足すと百二十字をこえる。⑤の「相談できる友人、助けを求められる場所、使える道具や制度」→「支えとなるつながり」（抽象化）。③の車いすと駅の話は具体例なので入れない（R08-4）。

4. **手順4　数える**
   八十字以内なので一文でよい。主語は「自立とは」ではなく、答え全体を「～ということ。」で結ぶ。最後に数える。

組み立て表

部品	中身	根拠	どうする？
骨	たよれる先が多ければ、一つを失っても自分の力で生きていける	④⑤	◎ 文末に置く
対比	だれにもたよらないことではない	①	◎ 前に足す
理由	たよる先が一つだと、失ったときに何もできない	④	○ 字数があれば
同格（列挙）	相談できる友人・助けを求められる場所・道具や制度	⑤	○「支えとなるつながり」に抽象化
具体例	米・電車・電気／車いすと駅	②③	× 入れない

模範解答

模範解答（八十字以内）　78字／80字以内

だれにもたよらないことではなく、人や場所や道具などの支えとなるつながりをいくつも持つことで、どれか一つを失っても自分の力で生きていけるようになるということ。

採点表

採点表(要素ごとの配点)	点
骨:たよれる先(つながり)が多ければ、一つを失っても自分の力でやっていける	4点
対比:だれにもたよらないことではない	3点
抽象化:友人・場所・道具・制度を「支えとなるつながり」などにまとめている	2点
文末が「〜こと。」・主述がねじれていない	1点
合計	**10点**

減点の型(こう書くと)	何点になる？ なぜ？
「困ったときに相談できる友人、助けを求められる場所、使える道具や制度を少しずつ広げていくということ。」	列挙をそのまま写し、なぜそれが自立なのか(骨)が無い。4点が入らない。
「車いすの人も、エレベーターが二つあれば駅に入れるように、…」	具体例を入れて字数を食った。骨か対比のどちらかがあふれる。
「自立とは、たよる先をふやしていくことだということ。」	——線部のくり返し。0点。

練習2　評論(要約)「対話とは何か」

解き方

1. **手順1　段落の役割を書く**
   ①例(学級会)②討論の説明 ③対話(②と対比)④理由(＋劇の例)⑤譲歩(たしかに)⑥主張(しかし)⑦主張のまとめ(R08-7)。
2. **手順2　外すものを決める**
   ①の学級会と④後半の劇・展示の例は具体例→外す。⑤の「たしかに〜」は譲歩→外す(主張と取りちがえない)。
3. **手順3　骨を決める**
   ⑥:対話の値打ちは、結論が出るかどうかではなく、たがいの前提のちがいを確かめ、自分では見えなかった見方に出会うことにある。
4. **手順4　対比・理由を前に足す**
   対比＝②③:討論は自分の考えを認めさせる／対話は自分の考えが変わることが目的。理由＝④前半:人は自分の考えの前提にひとりでは気づけない。
5. **手順5　三文に分けて数える**
   対比の文→理由の文→骨の文の三文にする。自分の意見(「私も対話を大切にしたい」)は足さない。最後に数える(R08-5・R08-6)。

組み立て表

部品	中身	根拠	どうする？
骨（主張）	対話の値打ちは結論ではなく、前提のちがいを確かめ、自分では見えなかった見方に出会うこと	⑥⑦	◎ 最後の文に
対比	討論＝考えを認めさせる／対話＝自分の考えが変わることが目的	②③	◎ 最初の文に
理由	人は自分の考えの前提にひとりでは気づけない	④	◎ 二文目に
譲歩	対話には時間がかかり、結論が出ないこともある	⑤	× 外す（主張ではない）
具体例	学級会の劇と展示	①④	× 外す

模範解答

模範解答（百五十字以内） 149字／150字以内

討論は自分の考えを正しいものとして相手に認めさせる話しあいだが、対話は、相手の考えにふれて自分の考えが変わることを目的とする。人は自分の考えの前提に、ひとりでは気づけないからである。対話の値打ちは結論が出るかどうかではなく、たがいの前提のちがいを確かめ、自分では見えなかった見方に出会うことにある。

採点表

採点表（要素ごとの配点）	点
主張（骨）：対話の値打ちは、前提のちがいを確かめ、新しい見方に出会うこと（結論が出るかではない）	4点
対比：討論＝認めさせる／対話＝自分の考えが変わることが目的	3点
理由：自分の考えの前提には、ひとりでは気づけない	2点
例・譲歩を入れず、文を分けて読みやすい・字数内	1点
合計	**10点**

減点の型（こう書くと）	何点になる？ なぜ？
学級会の劇と展示の例から書きはじめた答え	例で字数を食い、主張か理由が入らなくなる。入らなかった要素の点がそのまま消える。
「対話は時間がかかるので、すぐ決めるには討論のほうが役に立つ。」	⑤の譲歩を主張と取りちがえた。筆者の主張と反対になり0点。
「…出会うことにある。だから私も、意見のちがう人と対話をしたい。」	自分の意見を足した。要約ではない。字数も食う。

マナビエ
MANABIE

記述の設計図　U08 字数に合わせる（アドバンス）

© MANABIE　無断転載・複製・改変・再配布を禁じます